

第13回 丸山地区及び和田地区学校再編検討委員会合同会議 会議録

日 時 平成26年1月24日（金）
午後7時から10時10分まで
場 所 丸山公民館2階 大会議室
出席委員 丸山地区20名 和田地区20名
欠席委員 岡野委員、八代委員、結縄委員
笹子委員、川名委員、山本委員
傍 聴 人 2名

1 開会

これより丸山地区及び和田地区学校再編検討委員会第13回合同会議を開会いたします。両地区を代表しまして丸山地区の委員長をお願いします。

2 委員長挨拶

皆さん、こんばんは。一日のお仕事の後にこのようにお集まりをいただきまして、お疲れのこととは思いますがどうかよろしくお願ひ申し上げます。また、各部会の専門委員の方にはこういったかたちの外に時間を探していただきまして、御検討、御協力をいただきまして本当にありがとうございます。本日は13回を数える検討委員会でございます。小学校、幼稚園の建設場所のことでございますが、皆さんも十分御承知のとおり、重要な議題でございます。皆様方の貴重な御意見をいただきながら検討していくように、皆様方の御協力をお願い申し上げます。

3 教育長挨拶

どうも、こんばんは。お集まりいただきありがとうございます。この会議自体は3か月振りということですが、今、委員長からありましたが、専門部会の方々には、この間、協議を重ねていただいております。大変ありがとうございます。また、4月1日の嶺南中学校の開校に向けて、皆さん方にいろいろ御苦労いただいているということで重ねてお礼申し上げます。今日の会議ですけど、委員長からお話がありましたように、協議のほどよろしくお願ひいたします。

4 報告等

第12回の学校再編検討委員会合同会議を平成25年10月21日に行い、この時の出席委員は、丸山地区19名と和田地区22名となっております。

議題に入る前に、専門部会から検討状況を報告していただきました。

まず校歌・校章部会ですが、デザインの応募数が140点（141点のうち1点欠番あり）あり、その中から優秀作品を6点選考し、さらに最優秀候補作品1点を選考したとの報告がございました。

次に、行事・カリキュラム・学用品についてですが、嶺南中学校の制服が決定し、女子のスカートには、南房総の花をイメージしたピンクを、また男子のズボンには、海をイメージした水色を盛り込み、安全に配慮したデザインとなっているとの報告がありました。

そのほかの専門部会については、特に報告事項はございませんでした。

次に、議事に入りましたが議題の第1号「専門部会協議事項について」は、特に案件がなく、続いて議題の第2号「校章の決定について」検討をしていただきました。

校歌・校章部会から最優秀候補作品として141番の作品が提案されたところ、いろいろな御意見が出されましたが、結果的には専門部会から提案された作品の原画が最優秀作品として承認され、嶺南中学校の校章として決定されました。

続いて議題の第3号「統合小学校建設候補地について」検討をしていただきました。

検討するにあたっては、具体的な地点は抜きにして、何に重きをおいて決めていくのか、ある程度方向性を出してから具体的な地点を話し合っただくようお願いをしました。委員さんからは、「南三原小学校区内で検討することになっているため、C地点に盛土をして建設したらどうか。」という御意見がございました。また、まずはE地点をもう少し議論して、それがダメならば順序としてC地点を検討し、それもダメだったら別の地点を考えるようにした方が良いというような御意見もありました。これらについて、事務局からは、これまでの説明会などで、保護者等からは、「15mよりも高く、より安全・安心な場所に建設してほしい。」というような御意見が多くあったことや、0歳児からの子供たちを峰山に避難させる前提でC地点に盛土をして建設することは考えにくい。」というお話をさせていただいております。そのほかには、「もう少し現状のままでいき、子供たちの数がさらに減り小中一貫まで視野に入れて検討しなければならなくなった時に中学校側にとりいう流れにならざるを得ない。」というような御意見や、「子供たちの命を最優先させるため、丸山中の近くに建設した方が良い。」というような御意見、また「15mでは不安なため、小川地区の高さが安心できる場所。」という御意見、「事務局からほかの候補地を提案してもらい議論したらどうか。」などの御意見がありました。いずれにしても、いろいろな考え方や、思いがある中で結論には至らなかったため、引き続き検討することとなっております。

報告は以上となりますが、委員の皆様には前回の会議録を事前に送付させていただきましたので、本日の会議にて御承認をいただき、市のホームページに会議録を掲載したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(配布資料1, 2及び<参考>の確認)

御質問があれば御発言をお願いいたします。

(質疑等なし)

特にないようですので、前回の会議録につきましては公表をしていきたいと考えておりますので御了解を賜りたいと存じます。次に(2)専門部会検討状況報告についてでございますが、配付をしました資料1を御覧いただきたいと存じます。

事務局　　まず初めに、通学支援部会からお願いいたします。

部会長　　通学支援部会ですが、資料を御覧ください。私たちが実際に12月10日に行いました第9回の通学支援部会の資料の頭のページとなっております。そして、私たちの通学支援部会では、第9回をもって、これまでの8回の会議のまとめということで、この資料で報告会を開きました。ですので、今回、報告することは、これまでの話し合いの結果ですので、少し御時間をいただきたいと思います。資料を御覧ください。通学支援ということで、スクールバスの事、徒歩通学の事、自転車通学の事、様々な面で検討をしてきました。ですが、やはり時間を一番取ったのは一番に載せましたスクールバスの運行についての事です。嶺南中学校の専用のスクールバスを2台用意してもらおうということで以前お話ししましたが、平成28年度でしょうか、人数が30人を

超えるということで、本来であれば、上三原方面は奥まで入る予定でしたが1台が中型バスになってしまったので、奥までは運行できないということで、くすの木までの運行となりました。教育活動に沿った運行を要望してきましたが、月曜日から金曜日、学校行事がある運動会など、学校行事がある土日のみの運行となりました。長期休業中の運行、特に部活動の運行については、開校後、検討をしていただけたこととです。利用可能な生徒は、市の規定にのっとりまして、学校から4km以遠と決めました。場所としては、和田中学校の入り口辺りが4kmちょっとということですので、あの辺から遠い子が乗れます。下三原については、小戸よりの子と言うんですか、金井の方の下三原の子は乗れるんですが、沼に近い子供たちはちょっと4kmないので、乗れないということになりました。生徒が安全に乗り降りできるバス停を決め、運行時刻表を作成したので、右側を御覧ください。バス停については、北三原方面のバスは、今、南三原小学校で運行しているバス停を基準に考えています。和田方面については、日東交通のバス停を基準としたかったんですが、余りにも危ない箇所がありましたので、安全を考えて子供たちが危なくない所で乗り降りできるバス停を検討しまして、ここに載っている所のみ停まることにしました。自転車通学については、自転車置き場の増設はしていただけたということで、4月には完成するというお話を伺っております。自転車利用制限を設けない、「何キロメートル以上は乗れる」ということは止めました。その代わりに、ヘルメットをきちんと被るということです。自転車購入補助金対象を3km以遠とするということで、この3km以遠ですが、対象地区は和田町沼、海発、松田、下三原、先ほど言いました、下三原については沼に近い地区の子が補助金の対象になるであろうということです。スクールバスを利用できる地区の子については、補助金対象としないということです。街灯については、徒歩通学、自転車通学のことを考えて危ない所を確認しました。特に夜間ですが、暗くて危険だろうという所を確認しまして、街灯の要望をしました。資料裏面の地図を御覧ください。右側の下の方にあるのが、和田中と拓心高校です。上の方に向かって北三原方面という地図になっています。場所としては、庄司生コンさんの所までの真っ直ぐの田んぼ道になっていて、私がこの間バイクで走りましてところ街灯もついていました。夜走ってはいないんですが、かなりの本数というか、円の本数で、市の基準が60mだそうで、60mまでは近くはないんですが、それに近いだけの街灯を設置していただけてあります。なので真っ暗ということではなくて、街灯がぼつぼつついて、子供たちが国道を通れなくて、多分この道を通るであろうということで街灯の設置をしていただきました。後は、危ないと思われる地区が何か所かありましたので、通学支援部員の方から区長さんに通学支援部会長の名前で要望を出してあります。そのほかということで、スクールバスを運行する準備として、12月初旬に利用希望調査をしました。実際に名簿を作成して準備に取り掛かりたいという意図がありましたので、小学校6年生、中学校1年生、2年生について、意向調査を行いました。人数もはっきりしたんですが、資料には載せてありません。中には利用しないというお子さんもいらっしゃいますが、ほとんどの方が利用を希望しています。それを基に、生徒をバスに

乗せて試運転をしてみようということになっていますが、日程等については、まだ調整がついていません。ただ一度乗せてみないと分からないことが、特に和田方面は初めて乗りますので、試運転は必ずしたいと考えています。このバス停を決めるにあたって、あなたのお子さんはどこで乗りたいですかということで、スクールバスのアンケートを今年の夏に一度採っています。本当に近いバス停を挙げていただきました。ですので、和田地区については、その希望したバス停と今回提示されたバス停が違いましたので、保護者に少し戸惑いがあったようですが、私たちは最善な場所を考えて提案していますということでお話をしました。その中で、和田地区の保護者としては、スクールバスについては大変な期待があり、部活動、学校活動に沿った運行を望んでいます。

事務局　ただ今、通学支援部会から報告がございました。これに対する何か御質問等がございましたらどうぞ。

委員　街灯の関係ですけど、松田の4号線について、結構細かく設置されているという感じでしたが、私の記憶ですと、この1kmの間に街灯があるのは3か所位じゃなかったのかなと、いつ設置されたんですかね。それで多分、設置するであろうという所に杭があったんですが、何日か前に杭が撤去されていまして、これについて街灯を設置するのかなと、私は疑問を持ったので、その辺は教育委員会で何か把握していますか。

委員　ついでいますよね。

事務局　街灯の件ですが、ちょっと写真が白黒で分かりづらいんですが、写真の左下、海発の281、これが電柱番号になります。黒円のもののが東電柱となります。黒円の中が、一本置きに黒く塗ってありまして、この黒く塗ってある電柱に街灯がつくこととなります。

委員　今、ついでいますか。

事務局　ついでいます。それで、この写真では白円に見えるんですが、グロリアさんから踏切を渡って、その直線にあたる松田4号線と書いてある所の十字路の所までですが、ここまでは東電柱がございまして。そこから右側に向かっては東電柱がありませんので、ちょっと薄く円が4本見えるかと思えます。ここに支柱を立てて、街灯がつく予定です。これにつきましては、東電との協議がございまして、東電の方で、まずは東電柱を立て、支柱へ引っ張るといった協議、手続きが必要となりますので、その部分についてはまだ立っておりません。

委員　ついでいないんですよね。

事務局　今の段階でついでているのは、海発281号の電柱から一本置きに、グロリアさんの駐車場の所までの東電柱が既に立っている所については街灯がついています。

委員　ついでいますか。点滅していますか。

事務局　器具自体は付いていますが、まだ通電していません。

委員　まだついでいないんですよね。

事務局　器具自体は付いていますが、まだ通電はしていません。これは3月24日が工期となっていますので、年度内には通電見込みとなっています。さらに、写真の右上にな

りますが、一番上の角がやすらぎになるのですが、そこから踏切を渡って、松田5号線と書いてある所に3本立つ予定となっております。

委員 すいません、では一部ついております。全部ではなくて。

委員 杭が撤去されたんですよ。印がしてあったのが。

委員 私が見た時は、杭は刺さっていたと思うんですけどね。

委員 今はとってあります。

委員 とられちゃったんですか。失礼いたしました。

委員 あと、スクールバスの関係ですけど、これはある父兄から言われたんですけど、例えば4kmを境にして乗れる乗れないということで、それで松田の下三原よりの方が、例えば、郵便局に行ったら乗れるのかという話があったんですね。居住地が3.8kmの所に住んでいて、バス停が4kmちよつとの所ですよ。境なので、一番近いバス停までバックするようなかたちで歩いて行って乗ることができますか。この解釈でいくと多分無理だと思うと話をしたんですけど、その確認です。

部会長 通学支援部会としては、4kmということで抑えまして、和田中の入り口から、三叉路の辺りの子については、郵便局の所まで戻ってもらえるのであれば乗れるというふうに考えました。理由としましては、とにかくあの道はバスが停まる所がありませんので、危ないという判断をしまして、戻ってもらえるのであれば雨の日どうぞお乗りくださいということで考えました。お願いします。

事務局 委員、よろしいですか。

委員 はい。

委員 嶺南中からの下校バスについて質問をしたいんですけども、朝は1台出ているんですよ。帰りは15分置きにバスが出るというふうに解釈していいんですか。1本目のバスがくすの木に16時48分に着くということは、帰ってくると多分17時過ぎると思うんですね。そうすると4台位で回すということになるんですか。それが一つ目の質問です。二つ目は、現場の校長先生もいらっしゃるので意見も聞きたいんですが、果たして15分置きに出して間で乗る生徒が何人いるのかなという疑問を持つんですね。一年中空っぽで走るのかなという感じを持つんですがいかがでしょうか。

部会長 説明が足りず申し訳ございません。バスの時刻について、まず登校便については、学校からは朝練をやりたいという要望が出ておりました。ですが、距離的な問題がありまして、朝一本出してしまうと、登校便に間に合わないというか、朝練便を出すということは、午前6時に出発しなければいけないことになりまして、それでは子供が余りにかわいそうなので、午前7時33分、これは丸山中のバスがちょうどその頃着く、混乗バスですね。その時間に合わせて一本の運行としました。帰りについては説明が足りず申し訳ございません。下校便については、日没によって変わります。一番日が短い時で午後4時15分発、一番日が長い夏については午後6時15分発という時刻表になっていますので、基本的に下校便については、1便が授業が終わって直ぐ出る便、そして部活をやってから出る便の2便体制で動く予定となっております。

委員 分かりました。外の方も多分誤解していると思うので、分かりやすいように何かし

た方がいいかもしれないですね。

事務局 ほかにございますか。

委員 時刻表の間隔についてですが、子供たちが乗り降りして次のバス停まで1分というのは可能なんでしょうか。また、南三原地区の方はバス停にちゃんと小屋が何か所かありますけど、和田地区の方は雨が降ったり風が強い時、雨宿りをする所がそんなにならないような気がするんですが、その辺はどう考えているんでしょうか。

部会長 バスの時間については、南三原小学校区、北三原方面からバスが走っていき、3号車については、小学校便と合わせた時間間隔になっております。和田方面については、日東交通のバスの時間を参考にして、ほぼバス停の時間に近い状態で作っております。ただ間引きしていますので、若干時間が違います。和田方面については小屋がないということで、小屋も要望したんですが、土地の持ち主の関係だとかいろいろな問題がありまして、設置は難しいということです。ですので、通学支援部会としては、例えばお花畑とか、花夢花夢の前ということで、多少、雨宿りができる所と安全な所ということを考えて、バス停として設定してあります。

事務局 どうでしょうか。

委員 登校時には和田地区は和田、柴、花園は松林しかなくて、雨宿りする所ってそんなにはないと思うんですが、後は実際動かしてみないと何とも言えないと思いますので、これ以上は言いませんが、後は、和田地区の父兄からの意見ですけど、千葉銀行から次に乗る場所が日出橋、真浦の交差点の所ですよ。確かに道が狭くてバスが停まらないという意見もあるんですが、ちょっと間の距離が長いんじゃないかという意見を伺っておりますので、報告をさせていただきます。

事務局 ほかにございますか。

委員 ちょっと素朴な質問なんですけど、これ嶺南中学校の交通手段ですよ。丸山地区の場合にはこの機会に改良する部分はないんですか。例えば街灯とか。

部会長 この通学支援部会ですが、和田地区の通学支援ということで発足しまして、丸山地区については、現行のままということで、主に和田中学校区の事について検討させていただきました。丸山地区の方にも入っていただいたのですが、丸山地区の方は丸山地区の立場で和田地区の通学支援をしていただきました。以上です。

事務局 委員、いかがでしょうか。今の発言で御理解をいただきましたでしょうか。

委員 はい。

事務局 ほかにございますか。

(質疑等なし)

事務局 それでは、次に校歌校章部会をお願いします。

委員 部会長がお休みですので、代わって申し上げます。作詞作曲の依頼は済んでおり、前回の会議より集まってはおりません。連絡について特になしでお願いします。

事務局 特になしということですが、委員、何かありますか。

委員 1月中にはある程度の原曲になるものを、作曲の方で提示したいということで承っております。それでまた、聞いてみて少し相談ということになると思います。

事務局 事務局で1月の前半に作曲の先生に確認をした時は、年内にできればと考えていたとのことですが、若干長引いているとのことで、1月末を考えているとの連絡を受けておりますので御報告させていただきます。

次にP T A部会からお願いします。

部会長 専門部会として、来年度P T A役員の方を選出するために、何度か集まりましたが、まだ報告する状況ではございませんので特にないです。

事務局 次に、資料は特にございませんが、行事とカリキュラムの関係、また学用品について発言をいただければと思います。

委員 来週の月曜日に、両校のP T Aの本部役員に集まっていたいで、嶺南中学校の新生説明会の資料について検討していただきます。それで1月30日の木曜日に、両校それぞれ在校生と保護者に向けて、来年度の嶺南中学校についての説明をします。それで2月6日に、現丸山中学校において、来年度の嶺南中学校の入学生（現小学校6年生）、それから保護者に向けて新生説明会を実施する予定で検討しています。

事務局 ただ今の事について、何か御質問等ございますか。

(質疑等なし)

事務局 それでは、報告は以上で終わります。

これより議事に入ります。設置要綱第7条第1項の定めによりまして、委員長に議長をお願いいたします。今回につきましては、丸山地区、委員長に合同会議の議長をお願いいたします。なお、本日、検討委員会に傍聴の申し出がありましたので、傍聴者に入っておりますが、委員長よろしいでしょうか。

委員長 傍聴を許可します。

(傍聴人入場)

委員長 それでは、本日の出席委員は、丸山地区委員20名、和田地区委員20名です。両地区とも、それぞれ過半数に達していますので会議は成立いたします。それでは「第1号専門部会協議事項について」を議題といたします。事務局に説明を求めます。

事務局 第1号専門部会協議事項についてでございますが、それぞれの専門部会で協議検討を進めている中で、検討委員会で判断が必要とされる案件がありましたら、各専門部会から発言をお願いしたいと存じます。

委員長 第1号専門部会協議事項について、ただ今、事務局からの報告がありましたとおり、検討委員会で協議事項がありましたら各部会から発言をお願いいたします。

部会長 通学支援部会ですが、このように報告ということで作らせていただきましたので、これでよろしいかということ伺っていただきたいと思います。

委員長 ただ今の通学支援部会部会長から、先ほどの報告についてよろしいかどうか図ってほしいということでした。皆さん、これについていかがでしょうか。

委員 街灯の設置箇所について、4号線について、グロリアを中心にして左側は大変きめ細かく街灯が設置はされているようですが、その右側については、これ何メートルでしょうかね、80m位の間隔ですかね、田んぼがあるんで、なかなか難しいでしょうけど、左側がこれだけきめ細かく設置されているのであれば、右側についても同じよ

うな間隔で設置することはできないのかということと、松田5号線についても、同じような間隔で設置することができないのかということ。さっき60mに1箇所という話がさっきありましたので、その間隔で設置ができるものなのかどうか伺いたいです。

委員長 　ただ今、街灯の間隔の事について意見が出ましたがいかがでしょうか。

事務局 　ただ今の委員からの御質問ですが、先ほども申し上げまして言葉が足りなかったかもしれませんが、この東電柱、黒円の部分は一本置きにつくことになりますので、グロリアの北駐車場から右側につきましてもほぼ同じ間隔でつきます。ただ地権者といういろいろ協議をしまして、水稲への影響が出ないようなかたちで話し合いをさせていただきましたので、場所によってはちょっと離れている所もございしますが、設置位置については、そういうことで決定しております。

委員 　2枚半というと大体75m位ですよ。分かりました、等間隔でついているということですね。

委員長 　今の事務局の説明で御理解をいただけましたでしょうか。

委員 　はい。

委員長 　ほかに通学支援部会の報告について質問や意見ございますか。

委員 　確認なんですけども、この地図より嶺南中側の街灯は大丈夫ですか。これは、和田側ですけど、そこから嶺南中への通学路、多分丸山の田んぼの中を通過して来ると思うんですけど、その街灯とかは大丈夫ですか。

事務局 　丸山地区につきましては、町村合併前に街灯が設置してありまして、同じ間隔、東電柱の一本置きに街灯がついています。

委員 　はい、分かりました。

委員 　旧丸山中学校の川沿いの道というのは通学路に指定されているんですよ。

委員長 　その辺はどうでしょうか。

委員 　グラウンドがある所です。あそこは、ほとんど街灯がないんじゃないのかなという気がして。グラウンドを使っている時は確かにいいんですけど。確か記憶ですと、野球のホームベースがあった辺りに1本と、体育館の突き当たりに1本と、その間は街灯がなかった気がしますね、記憶が定かではないんですが。

事務局 　ただ今の御意見ですが、丸山地区につきましては、先ほどのスクールバスと同様に学校の位置も変わらないということで、街灯等についても見直し等は行っておりません。確かに委員のおっしゃるように、あそこは詰所の所に一か所あって、後は丸山体育館の所まで電柱がございませんので、街灯がない状態だと思います。今後、必要があれば検討していきたいとは思いますが、これについては、嶺南中、丸山中の位置が変わらないことから、丸山地区については見直し等は行っておりませんでした。

委員 　見直しを行ってほしいと思います。

委員 　今の丸山の街灯の件ですが、丸山中の方からも委員に出させていただいておりまして、街灯の件については、話題にはしました。話題にはしましたが、街灯と一言に言いますが、虫の問題やら様々な問題がありまして、委員の中では、丸山中学校区については、今のところは、問題視する所は出せないかなということで終わっております。

ので、和田地区を中心に話をしました。全く話に触れていないわけではなくて、話題にはしまして、一応考えたということで御理解いただきたいと思います。

委員 一応、要望だけしておきます。

委員長 事務局の方でも、必要があるならばということで、そういう回答がありましたので御理解をいただけますでしょうか。

委員 はい。

委員長 それでは、通学支援部会の報告に関して、この報告を確認するというので、皆さん異議ございませんか。

(異議等なし)

委員長 それでは、この報告のとおり、本日の報告について、今までの検討をまとめたものということでしたので、この報告のとおり確認したいと思います。

それでは次に議事(2)統合小学校建設候補地についてを議題といたします。事務局から何か報告がございますか。

事務局 それでは、配付させていただきました資料2を御覧ください。資料2の丸山地区、和田地区児童推移予想について説明をさせていただきます。

これまでも児童数の推移については、何度か説明をさせていただいておりますが、想像していた以上に減少率が激しいことや、また現時点においても様々な支障を来していることから、改めて説明をさせていただきます。特に見ていただきたい個所が網掛けとなっています。上段の表は、学校別、年度別の児童数となっています。

まず平成25年度の欄を御覧いただきますと、丸山地区では、南小学校が133人、丸小学校が74人で丸山地区の合計は207人となっています。

和田地区では、南三原小学校が120人、和田小学校が79人で和田地区の合計は199人となっています。両地区の合計は、406人となります。両地区で平成24年度に生まれた子供数は50人ですが、その子供たちが小学校に入学する平成31年度になると丸山地区が161人、和田地区が136人となり、両地区合わせて297人となる見込みで、現在より100人以上が減り、約3/4の児童数となってしまいます。平成31年度までの数値は、住民基本台帳による数値となっていますので、転入や転出等がない場合は、実際の児童数となってきます。平成32年度以降の数値は、平成18年度から平成31年度までの減少率の平均をもとに算出した児童数となっています。平成38年度には両地区合わせても各学年が単学級となることが考えられる218人まで減っていき、その後も引き続き減少していくと考えられます。ちなみに、平成25年4月2日から12月末までに生まれた子供の数は、両地区合わせても29人となっており、年度末までを見込んでも昨年度に比べかなり下回ると考えられます。また、下段の表は、平成25年5月1日現在を基準日として、1歳から6歳までは、小学校区別の子供数となっており、小1から小6までは、学校別、学年別の児童数となっています。特に、丸小学校区の3歳児は男の子が6人で、女の子が1人という状況であり、また現在の丸小学校3年生は、男の子が10人で、女の子は1人もいない状況となっています。和田小学校区においても、2歳児は男の子が5人で、女の子が

1人という状況であり、また現在の南三原小学校の1年生は、男の子が5人で、女の子が15人という状況となっています。現時点においても学年によっては児童数が少なく、極端に男女のバランスが悪いクラスが生じており、その保護者の方からは、「一日も早くそのような環境を改善してほしい。」という切実な思いを訴えられているのが、実情となっています。資料2の説明は以上です。

資料3の「丸山地区・和田地区の小学校等の再編のあり方について」を御覧ください。

(資料3を説明)

③の「嶺南中学校隣接地に1校とする」パターンを提示した理由ですが、先ほど説明したとおり、これまで「和田地区の南三原小学校区内で検討する。」ということで、協議を重ねてまいりましたが、いろいろな問題があり、実際には厳しい状況となっています。これまでの協議の中でも、年々、子供の数が減っていくことが分かっているため、「将来的な小中一貫教育を視野に入れ、嶺南中学校隣接地に建設したらどうか。」という意見も多くありました。また、「安全・安心を最優先させるべき。」という意見も多くありました。事務局としましては、「子供数の減少が著しく、両地区合わせて平成31年度には、学年単学級が考えられる218人程度まで減り、そして、その後も引き続き減少していくと推測されること。また、小学校での英語学習が教科となり、現在の5・6年での実施が、3・4年からなることが現実化していること。さらには、小学校の6年制と中学校の3年制の見直しが議論されるなど、教育改革もこれまでにない動きを示しています。嶺南中学校の生徒数や中学校区内の子供の数が減少していく中、「将来を見据えた学校のあり方を考えると、小中一貫教育の展開などが可能となる幼保・小中学校の設置が必要となってくる」と考えております。また、これまでの協議でも「海拔15mでは安心できない、より高い場所」という意見や、「海拔15mで、もし何かあったら責任をとれるのか。」というような厳しい意見もあり、その言葉の意味は非常に重く受け止めております。昨年12月に、新たに「可能性は低いとしながらも最大クラスの地震が発生した場合、南房総市の津波高が21.5mにもなる。」という想定が出されました。その様な状況の中で、「子供たちの安全・安心」をより確かなものにしていくことが必要となっているため、嶺南中学校隣接地を1つのパターンとして提示させていただきました。

説明は、以上となりますが、新校舎を建設するには、多額の費用を要することになりますので、財源措置があるうちに建設するには、早急に結論を出さなければならないため、再度、いろいろな視点から総合的に判断していただき協議をお願いしたいと思います。資料3の説明は以上です。

委員長 　ただいま、事務局から初めのところでは児童の推移予想、そして追加資料として資料3を皆様方にお配りし、朗読及びそれに基づいての説明がございました。皆様方から、今、お聞きになったことを基にして御発言をいただければと思います。

委員 　私は、これは別として、小学校PTA会長としての集約された意見はC地点ということですので、私はC地点を曲げるつもりはございません。それと、あとその15mということで、私が在職中に15mになっていますよと事務局から聞いていま

すが、この会議録を読み返してみました。そうしましたら、平成24年1月26日の丸山地区の検討委員会の中で、「海拔を15m以上と設定されていますが、それは何を根拠に15mですか」と聞かれた方がいます。そうしましたら、「明確な根拠はありませんが、15mの高さがあり、更に2階、3階建ての建物を建てれば、津波の被害はかなり防げると考えています」というお話が出ています。明確な根拠はありませんという事が、平成24年1月26日の会議の中で言われています。それで、15mというのが、私の記憶では防災計画では14m、委員会の説明の中でも、公共施設については、14m以上に造るという話がされています。平成24年9月13日の合同会議の中で詳しい説明がされていて、防災計画で15mになったとは言っていないが、15m以上というのが一人歩きしているような中で、伊豆でしたか、静岡県の例を採って6mの安全を取って15mというような言い方をされていますので、防災計画の中で、私が在職中には15mとなった記憶はありませんでした。その辺は確認させていただきたいと思います。ですから、最初から14mで考えていけば、C地点だろうとE地点だろうと全部クリアするわけですよ。なぜ、15mなのか、根拠がないのに15mから始めているわけですよ。ですから、南三原にはないよと、最初から、決定付けるために15mが一人歩きしたのではないのかなと、私は悪くっています。ですから私は、南三原小学校でアンケートを採った結果CとEというようなかたちで、E地点についてはいろいろ問題があると、じゃあ、C地点についてはどうだと、皆さんで話し合った結果がC地点となりましたので、私はC地点でお願いしたいと思います。

委員　　私は今年、委員になりましたので、いつも昨年を踏まえた意見がなかなか出せなくて違和感のある方もいらっしゃると思うんですが、いずれにしても、今、説明があったとおり、暮れの政府の中央防災会議で、南房総市に21.5mの想定がなされた以上、14mも15mも意味がないのではないかというふうに思います。私は、学校を建てるにあたっては、やっぱり子供や孫が心配な所に建てるのはちょっと不安です。やっぱり、学校にやっている間、あそこの位置では心配だなといつも思っている、まずいのではないのかなと思うんですね。あそこの学校にいれば、家にいるよりも安全だよと、学校にいれば安心していられるという所に建てるのが、学校だと思います。なぜならば、学校は避難場所にもなりますし、避難所にもいずれなるわけです。したがって、21.5mの想定が、本当に来るか来ないか分からないけれども、出た以上は、それを踏まえた議論をしなければ意味がないと思います。

委員長　　ほかの方はどうですか。

委員　　委員のおっしゃることは分かるんですが、学校が避難場所になるということですよ。そうすると、和田地区には学校が一つもなくなりますので、和田の人はどこに避難したらいいのでしょうか。要するに、そういう津波が来るということは、この場で議論することではないんですけども、じゃあ、私たちの住んでいる所には、どういうふうに対処していただけるのか、そういうことも頭に浮かんでくるわけですよ。中学校もなければ、小学校もなくなる、じゃあ、私たちはどこに逃げたらいいんでしょ

うか。それで、21mというのが、南房総市のどこで予想されたのかが私はそれが一番知りたいですよ。例えば内房なのか、白浜なのか、今、言われている白渚から大原海岸なのか、その辺のデータを教育委員会でお持ちでしょうか。

委員長
委員

ありがとうございました、
年末少し前位ですか、臨時総会を開きまして、この件に関して、和田小学校として、どの方向で進めていくかと再度確認をしまして、先ほどおっしゃられたように、子供はあそこに置いておけば大丈夫だという高さの所に小学校を造ってほしいということ。親は死んでも、子供には生きていてほしいという発想だと思うんですけども。そういった意味で、南三原小学校区で造るのであれば、小川の辺りでないと高さが足りないのではないかとということで、もし、その案がどうしても通らないのであれば、今、検討している土地以外の場所だとしても、和田・丸山の両方の中の高さを満たしている所に建ててもらえればいいんじゃないかというふうに考えています。それで、想定がどうこうという話が出ましたけども、自然災害を誰か明確に答えが出せる人がいるのかといたら、いないじゃないですか。だから、その1m、2mの議論をしていくのは不毛な感じがするんですよ。僕らの求めているものは「安心」であって、子供をあそこに置いておけば大丈夫だという状況を教育委員会が、あるいは市が英断して決めていただければ、それでいいんじゃないかというふうに考えています。ただし、和田から小学校がなくなるというのは、非常に大きな問題であるのは事実なんです。今、委員がおっしゃられたように、問題は明確なんです。南三原の方々はどこに逃げたらいいのかということをや問視する、小学校も中学校もなくなってしまうたら、どこに逃げたらいいのかということが、教育委員会の采配の中でできないのだったら、市の方で、南三原地区にはこういう避難場所を造りますよというのを提示してもらえるように、教育委員会の方から、別の担当の所をお願いできないのでしょうか。そういうことがもし解決してくれば、その避難場所のことで云々言う必要はなくなってくるんじゃないかという印象を受けています。あと、もう一つ、区長会の方々がおっしゃられる、小学校がなくなれば地域が疲弊してくる、それは実際そうだと思うんですが、じゃあ、今まで疲弊しないように地域と小学校がどういう連携を取ってきたのかというのが、今までの歴史の中であるんでしょから、それをそれぞれ出していただいて、それを無駄にしないようなカリキュラムを組む方法で、小学校の運営方法を考えることはできないか。例えば、日数がこの先、土曜が入るかもしれませんけど、じゃあ、土曜は地域の方々と何かやるようなカリキュラムしましょうと、そういうカリキュラムを一緒に考えますよと教育委員会の方が提案していただければ、それは地域と学校の繋がりというのを考える可能性が出てくると思います。それを場所だけをまず決めてから全部を決めましょうという話になると、おそらくそれぞれの思いと主張だけが渦巻くだけで、何も決定していかないんじゃないかと私は思います。

委員長
委員

ほかの方からも御意見をいただきたいところなんですけどどうでしょうか。
今、また新しい方針をいただきましたけれども、これの中にE地点とかは入らないんですか。4校統合で、E地点とかC地点とかそういう話はもう入らない。

委員長 御質問ですね。

委員 はい。

事務局 今回の御質問ですが、資料3の中でも記載させていただきましたが、昨年2月に事務局からE地点を提案させていただきました。以後、協議を進めてまいりました。事務局とすれば、当時はE地点が南三原小学校区内の中では最適だろうと提案をしたところでございますが、その後、協議をしていただいた中で、地盤の問題、環境・衛生上の問題、そういったことが、この協議を進めていく中で、明らかになってきたところございまして、E地点については適当ではない場所なのではないかということで、今回の資料となっております。

委員 今、事務局から残念なお話がありましたけれども、自分は1回から出ていますが、平成24年度の検討委員会でE地点が提案されて、それぞれ地盤とか、平成24年度の委員さんは問題を一つずつ片付けていって、糞尿の問題で協議中に委員の方が変わったんで、そこで話が止まってしまっているんです。新しい委員さんがいろいろな質問をして、ごたごたになっている状態で、E地点の検討を途中で投げつけてしまうんですか。自分の認識では、地盤は平成24年度の委員では大丈夫という結論を出して、今度は牛屋さんがいるので、その糞尿のにおいはどうなんですかと、昼間にあの辺の場所に行って、皆さん肌で感じてくださいますか。それで、南三原の方で今度はC地点がいいとか言っていますけれども、討論途中であやふやなまま検討が終わってしまっているんですけど、自分としては、やっぱり年度が変わっても、ここまで話し合ったことを続けていかないと、このまま3月を迎えてまた委員が変わってしまって、また一から話をするのは時間の無駄というか、ここで決めたことは尊重してもらいたい。新しい委員がいろいろ意見を言うのは、確かにありがたいことなんですけど、その決めた意見をないような感じでまた振り出しに戻ってしまうのは、検討委員会って一体なんなんだろうかと。もう1月末ですよ。あと2か月もしたら委員の交代という話が現実あるじゃないですか。それでまた、ちゃんと引き継いでいってくださいねみたいなことだと思うんですけども、実際、今年度は引き継ぎがうまくいったとは思えないんですよ。

教育長 委員のおっしゃったことですが、資料3の真ん中あたりのゴシック文字になったところがあると思います。今まで皆さんに議論いただいたんですけど、学校の建設場所を決めるにあたって三つの考え方ということで、「地域性や地域の思いを優先させるのか」、二つ目として「安全、安心。将来のあり方等を考える」、三つ目としては、「両者のバランスを考える」。私どもとしましては、やはり地域、地域性とかそういったものを大事にしていこう。そういう中で安全、安心が図れるものということで、E地点を提案しました。委員が御指摘のとおりだと思います。ただ、私どもE地点を提案したわけですが、それについては御理解を得られない状況だったと思います。そしてさらに、E地点ではなくてC地点ですか、峰金井の所が新たに提案された。私どもとしては、C地点が出た時点で、E地点については、皆さん方の理解が得られない場所なんだという、そういうような判断をしてこのような経緯をまとめて出しております。

皆さん方が総意でE地点をもう一回ということでしたら、私どもはE地点を完全に否定するというではありません。ただ流れとしましては、繰り返しになりますけど、地域性あるいは地域の中で最大限安心、安全が満たされるような所ということでE地点を提案したわけです。ですけど、この会議の中でE地点の賛成を得られない、しかも新たな、もっといい所だとC地点が出てきたわけですので、しつこくなりますけど、E地点というのは皆さん方の念頭にはないのかなという判断はしております。

委員

今更からもしれないですけど、実は私はE地点でお願いしますということで、昨年度、2月、3月ですか、消防団員としての意見を述べさせていただきました。震災時、南三原地区の分団長をやっております、中学校が避難所としては不適合ということで、小学校、保育所への移動、いろいろやりました。中には横浜から来ている方で電車が不通になったために一夜を保育所で過ごした方もいました。それを考えますと、やっぱり南三原には避難所、公共施設が是非ほしいという意見を述べさせていただきました。また、南三原小の4月の総会の時に、平成24年度の委員4人で、再編検討委員会の現状を説明して、一応、E地点でいかせてほしいという意見を委員の代表として私が総会後の説明会でやって、PTAの委員に一応理解を得られたと考えておりましたが、2か月後のアンケートでひっくり返ってしまったという、あれは何だったのだろうと、自分的には大変悔しいというか、残念な気持ちです。2年間、南三原小の代表として参加していて、一体何をやっていたんだろうという考えです。PTA会員の皆さんの意見をまとめるというのは本当に難しいですけども、PTAの皆さんが顔を見て意見を言うのではなくて、自分が親身になって、自分の意見で自分は今までやってきたつもりですけども、ちょっと話がまとまらないですが、是非、より良い学校を、さっき言われた自然災害は今、起こるかもしれないし、100年、200年全然起こらないかもしれないし、それを皆さん、やけに敏感に、大震災があった後なので敏感なんだとは思いますが、ここまで考えなきゃいけないことなのか。昨日、大川小学校の震災時の判断が出ましたよね。確かに建物は大丈夫だったんですけども、残念ながら学校職員、先生方の判断が遅かったという、25m、30mの所に建てたからといってそれで安心かということ自分はちょっと、最後は人だと思うんで、15mでも普通に人がちゃんとやってくれば安心という判断をしたいんですけど。

委員長

ありがとうございました。お話は皆さん分かっていると思います。

委員

さっきの意見に補足したいと思います。我々がこの会議を始めた時点、去年も今年もそうですけども、その時点の南房総市の津波の想定は9mないし11mです。ですから、15mだったら大丈夫だろうというのは、程々の判断かなと私は思いました。ただそれは安全かもしれないけど、安心はできないというのが私の意見でした。今回、暮れの中央防災会議で21.5mと出たんですけども、関連で首都直下型地震、あるいは南海トラフ地震、21.5mは相模トラフ地震ですけども、そうした津波の新しい被害想定ができたわけです。各自治体が、それに対してうちの自治体での被害想定はどうなるのか、防災計画の見直しはどうするのか、既に安房地域の災害対策医療会議は、正月に21.5mを受けて会議を持っているんです。南房総市の消防防災課も

参加しております。そうしたかたちで動いている中で、あえて14mとか15mの所に、なぜ新設校を造るのか、私には理解できません。さっき地域の避難施設という話もありましたけども、地域の避難施設も含めて見直さなければ、私は安全、安心な避難施設にならないと思います。そういう点で、どうしても南三原にこだわるのであれば、峰山を崩して平らにするとか、そういうことをしてでも、子供の命を守るという考え方をするのが、筋道ではないんですか。ただ私は、山を崩して道を造ってということになると、本当にお金がかかるので、総合的に考えたら、和田、丸山、これが新しい学区だと思いますから、その中で必要最小限の金額で、最大の効果の持てるような場所を決めていくのがこの会議の使命ではないのかなと思います。

委員長 ちょっと私がものを言っただけとはいけないのかもしれませんが、お許しをいただけるのであれば、この資料3に基づいて説明がありました時に、上から7行目の所に結論的なことというんでしょうかね、「和田地区の南三原小学校区内で検討することについては、実際には厳しい状況となっています。」という、この説明を皆さんがお聞きになって、その辺のお考えをいただけたらと思いますがどうでしょうか。

委員 ほじくり返して申し訳ないんですが、前回の10月の会議の終わりの時には、皆さんの意見を聞いて、それでそれを参考にまた考えたらいいんじゃないかということで、議事録の24ページの下の方に載っているんですけど。そういうことで終わったと私は認識しているんです。なので、いつもいらっしゃっていてもお話されない方も大勢いらっしゃる、今日も始まっていつも同じ方しかしゃべっていないことを考えて、やはり端から意見をきちっと言っていただいた方が有効な時間を過ごせるのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。

委員長 委員から、お一人お一人の意見を伺ってはどうかとのございますが、私の方で指名というのはしづらいものがありますので、皆さん方に進んで言っていただこうと思いますが。今、委員のおしゃっているような気持ちを皆さん方も同じように持っておられるかなとも思いますので、どうでしょう進んで御自身の、特に追加資料3を出された関係もありますのでその辺に関係したようなお話をお願いしたいんですが。

委員 私も資料3が出る前に、今までの様子を資料で見てみたんですが、資料3の中に載っている、中間にある太字の①、②、③、これについて、相当いろいろな意見を出し合ってきたんですが、視点が違う中での発言だということで、とにかく目的の一つにしましょうということだったんだけど、それも共有できなかったわけですので、この際、①、②、③のどこをここで共有していくのか決めて、決めたら後はそれに一番近い場所を選べばいいのではないかなと思うんですね。非常に先ほどの委員の建設的な意見に感動をしたんですけども、例えば②を採った時に①と③は駄目なのかというところではなくて、違った視点からそういうものもクリアできるというような考え方もしていかなければいけないのかなと、学校ができないから、全てその地域も駄目になってしまうというのではなくて、地域の活性化にはどうしたらいいのかということを考えればいいのかと思うので、まず①、②、③の何を一番に私たちは考えなくてはいけないのかを共有した方がいいと思うんですけどいかがでしょうか。

委員長 ありがとうございます。どうでしょう。

委員 今の、①、②、③について、校長先生から御指摘をいただいたんですけども、私が言っている①は、真ん中辺に太い字で書いてある「地域性や地域の思いを優先させる」というのをこの委員会としては一番にとらえて場所を選ばなくちゃいけないのか、あるいは②の「子どもたちの安全・安心や、将来を踏まえた」というところを優先するのか、あるいは③の「両者のバランス」を採るのかというところのどれをまず皆で共有していこうか、もちろんみんな大事なんだけれども、一番に大事に思うところを皆で共有したら、それをクリアするための候補地を選べばいいと思うんですが。

委員 やりましたよね。

委員 やったけど出なかったですね。

委員 だからやったので今更出ないと思います。

委員 いや、今、委員がおっしゃってくださったように、クリアできないものは、また違った視点からクリアできればいいという発言に、私は非常に感動したのでね、決して一つのことで皆が共有できたから、ほかの視点部分は駄目になるのかといたら、そうではなくなるということに気がついたので、私は採るべきだろうと思うんです。

委員 私の発言が話題になっているので。私の先ほどの発言はある意味、市に質問している部分もありますので、予算的に問題になっているのは小学校の建築費用の施行に対して年限があるということで、その予算をいつ、早くちゃんと期限内に使わないといけないという意見を持っているわけですが、さっき申し上げましたように、南三原小学校の近辺の方々がどこに避難すればいいのかという避難場所を市の方が新たに造るようなことを考えてくれる可能性はあるのか、あるいは、例えば和田にしてみたら和田小学校区、南三原小学校区からは小学校がなくなるわけです。文教地域というのが丸山に集中してくるとなると、じゃあ和田はどうやってこの先発展していけばいいのかというところを、市として何か青写真のなものを持っているのかとか、そんなようなことも含めて考えないと地域が自分たちはどうなるのか不安になっている時に解決しないと思うんです。だから小学校の建設場所だけをここで議論していてもなかなか進まないのは当然だと思うんです。心配されていることが別のことなんですから。地域が疲弊するから困る、でも小学校があれば地域が活性化するのかといたら、そうではなかったから合併しないといけないことになっているんですから、だとしたら、和田はどうやってこの先、小学校がなくなった我が身を守っていけばいいのかというのを、市の方針として明確にしてほしい。例えば、観光産業を発展させるために市が援助しますよとか、そんなような一言が付いてくるんだったら、そっちの方で妥協できるから、丸山を文教地区というやり方にして、和田は観光地区というようなエリア毎に分けられるような観点を、市がトータルなまちづくりの計画を明確にしたところで、我々は納得して、丸山地区は文教地区としてお願いしますよ。子供たちは任せたいよ。だけど和田は観光で頑張りますよというような話が、その先で進んでいくんじゃないかという印象を受けるわけです。もう三竦みなんです。皆それぞれが、それぞれの思いを持っているわけなんです。だから、それを解決するためには、誰かそれを語

れる一言がほしいかと。市はこうやっていきましょうよと言ってくれる一言がそろそろ必要なんじゃないかという印象を受けています。

教育長

私が答えられる範囲でということで、一つは、新しく建てる学校ですね。学校が即、津波等の避難施設とは考えない。ということは、逆にいいますと、例えば南三原地区に津波の時の避難施設がないからそこに学校を建てて、そこを避難施設にするという考え方はありません。ですから、学校は学校で、先ほど委員がおっしゃったような、そこにいれば子どもたちは100%安心だというような所へ建てたいというのは、保護者の方、あるいは地域の方の共通の願いだと思っています。ですから、それを最優先に最適な場所を選んで建てていく。そして、それがたまたまその地区に津波等で避難する高さの施設がない場合については、避難施設として考えていく。例えば富浦小学校区も同じような考えになってくると思います。あそこも学校が建っている所は低いわけですがけれども、学校を新たに高い所に建てるということは今、ありませんけど、やはり大きな津波が来た時にどこへ避難するというようなものは必要だということは考えております。ですから、学校と、いざ津波の時の避難施設というのは別に考えていけないといけないと思っています。それともう一点ですけど、私が答えられるものというのは、先ほど委員がおっしゃった、要するに地域学習を新たな学校で展開していく時に、学校が併設されたその周辺地域だけを考えるのではなくて、丸小学校区、南小学校区、南三原小学校区、和田小学校区の4小学校区全てを地域として考えているようなカリキュラムを作って、それで学習を展開していくことは必要だなと、先ほどお話を伺って考えております。あと、観光とかそういうものについては、教育委員会の範疇からは出ていますので、確におっしゃることは分かりますので、学校がなくなったから全く火が消えたということがないような政策というものは考えていかなければいけないんじゃないかということについては全く同感です。

委員長

先ほど、委員ができれば一人ずつお考えを持っていらっしゃるだろうからということで願いをおっしゃいましたが、まだ発言をされていない方いらっしゃいますがどうでしょう。今日は特に資料2、3が提出されたことですので。

委員

何回も何回も私が発言してまた言うのかと言われてしまいますけど、皆さんが黙っているのがちょっと発言させていただきたいんですけど。一番最初、要するにこれが何で始まったか、小学校と中学校の統合、要するに中学校は丸山に持ていきますよという中で、じゃあ小学校については、今の南三原小学校の敷地は低いので、そこに建てることはできないので、南三原小学校区内で検討しますよという話で、E地点という話で南三原小学校はいきました。それで私も年度当初、E地点という話をしました。そんな中で、あそこについては環境がどうのこうのということではなかなか決定しませんでした。私の記憶の中で14mという記憶がありましたので、じゃあC地点がいいんじゃないかと、15mでなければいけないというような話をどなたかがおっしゃっていましたので、盛り土をすればいいんじゃないかという案で、私は小学校の父兄の皆さんにアンケートを採った結果、E地点もいいだろうけど、C地点に盛り土をした方がなおベターではないかという話で私はC地点という話をしました。そ

れで、あその所については、道路を造らなくてもいいですし、造成するにしても盛り土をすればいいし、それでもなおいけないのであれば、裏へ建てればいいと思います。それとあと小学校がなくなった場合、その代わりは何ができるかといったら、何もできないですよ。南三原小学校というのは、皆さんは多分御存じだと思うんですよ、教育者がたくさんいらっしゃいますからね。昭和25年にですね、千葉県PTA大会を開くにあたって、その話し合いが南三原小学校で行われております。要するに地域と小学校が連携している最たる所だったから、千葉県の人たちが南三原小学校に集まって、そういう議論をされたんじゃないのかと考えています。南三原という所は文教の地区ということです。そういう所から学校がなくなってしまって私は私の代で今まで議論されたことであって、ほかに持っていくというのには賛成できません。

委員

私も久しぶりにお話をさせていただきますが、ものすごい議論の論点がずれてしまうと思うんですね、特に今の話なんか。やっぱり私たちは、将来、子供たちがどうあるべきか、たった13年後には小学校の生徒が100人を切ってしまうんですよ。確かに文教すごくあります。でも、丸小学校も実は校長先生がいっぱいいたり、委員さんなら分かると思うんですけども、それはその地区その地区に思い入れは皆あります。たまたま丸小学校は南小学校と合併して、丸小学校は採用されないことが分かっているから、ぶっちゃけどこでもいいんですよ。南三原小学校区の皆さんは、自分の所に建つと思っていたから、ものすごく反発があるんですよ。和田小学校区の人も、老朽化し雨漏りした校舎であれば、多分、どこでもいいと思うんですよ。私たちはもっと先を見て議論すべきだと思うんですね。先ほどの委員の意見も、本当の消防人の意見だとは思えないですよ。いつあるか分からない地震を想定して建物を建てるべきなのかって、当たり前でしょ。いつあるか分からないから、それに備えたものを建てるんですよ。本当に子供の命が大事なのか。今のお二人の話からは全然伝わってこないですよ、私は。死んじゃってからは間に合わないんですよ。親が死んでも子は生かしたいというお話をされた方がいると思うんですけど、多分、PTAの関係者、もちろん、区の代表の方々、学識経験者の方々全員そう思っていますよね。今回、七浦小学校が閉校になって、今後の利用方法を公募しますが、私たちは本当に、高々十何年しか使わない学校を建てて閉校して、それをどう使うかなんて、後世の人に託すなんてことはしたくないじゃないですか。やっぱり最善の場所に建てて、鉄筋コンクリートであれば、30年、40年は多分使えますよ。その議論をしていきましょうよ。私はたまたま丸山出身だから、丸山中の隣に建てれば丸山の間人だから当たり前だと思われちゃうかもしれません。ただこれは、普通の人、全く第三者が見たら、一番合理的な場所だとも思うんですよ。海拔が29mあって、元々盛土の地域ではないので、土砂崩れの心配もそんなにはないと思います。何が大事ですか。子供の命ですか、自分の地域ですか。私は子供の命以上に大切なものはないです。

委員

当然のことです。子供の命というのは。ただ、いろんなことを考えていきますと、私は津波だけが災害ではありませんし、普段の暮らしであっても、いろいろな重要な問題でもあると思うんです。千年だか何百年だか分からないですけども、それ

に一回の確率だと0、何パーセントの確率だと公表されているような地震もある中で、14mという一つの目安があって、今回21mという報道がされたわけですけど、一番最初からの物事を考えていきますと、南三原の所っていうのは、どこから来ても等距離ですよ。ですから、普段の生活をするというか、小学校や小さい子が通ってくるにあたって父兄の方が来るにしても、どこからも真ん中です。悪いんですけど、今の丸山中学校の所っていうのは和田の花園からの距離と、西の方へ行くと北条海岸まで届きますよ。要するに和田の人たちは、館山ばかりが生活圈ではなくて、鴨川の方に勤めている方が結構いらっしゃいます。そうすると、そういう方が例えば、子供たちを送ったり、何か遭って迎えに来た場合にですね、今より少なくとも20分以上は早く、お父さん、お母さんたちは出て、送ってくる、迎えに来なければいけないということも考えられます。いろんなことを考えていきますと、小さい子を育てるにはやはり近い所が一番いいなど。誰かがおっしゃっていましたが、統合なんてしないで和田に一つ、丸山に一つでいいんじゃないかというような意見も出ていました。私は、小さい子に対してはそれが一番いいと考えていましたけども、ただ4校が一緒になるにあたって、最初からそういう議論がされていますんでね、ではどこがいいのかという話をしていた中で意見を述べただけで、決して命を蔑ろにしているわけではございませんので、その辺はよろしくお願いします。

委員長 ありがとうございます。先ほどの委員の御意見だとか、今の委員の御意見と同じような、重点というものを尊重しなければいけないのはこういうことだということは共通しているわけで、本当に検討委員の皆さん、同じようにお考えになっていると思います。先ほど、皆さん方の話す方向を委員が資料3の①、②、③のどれかに焦点付けて、その焦点付けが弱いからと、これはもっと前にそういった話し合いの方向付けをいただいたことがあるわけでございますが、やはりこの資料2、資料3を出されてそういう方向で話し合いを持っていくべきかなということ。強いて言うなら、①か②か③ですね、どれを取り上げて、どこに重点を置いて協議をしたらいいかをですね、皆さんの話はもうそういったものを含んでいますから。

委員 お願いなんです。いつも同じパターンなんです。先ほども申し上げたように、今日だってお話なさる方は、いつもお話なさる方なんです。前回、折角一人一人意見を聞こうということが出ましたので、例えば右端の委員から順番に話していくとか、そういうふうに使っていただいた方が、今日もいい意見たくさん出たんですけども、皆さんお腹の中にしまわれている部分があると思うので、少しずつでも言っていただいて、皆さんの意見を聞きたいなと思うんですが委員長いかがですか。

委員長 大変、前向きなお話をいただきましたですね。これだけの方がいらっしゃるわけですからなるべく早くこれを主に考えようということですね。

委員 私も最初この検討委員になってからはE地点で検討するというので、年度当初始まりました。ただ、E地点については、余り良くない、良いですよという意見等々出たんですが、最終的に決まらなかった。であれば、前回の3か月前の会議の時に、今になってしまい申し訳なかったんですが、地区に本当こだわらずに候補地をという意

見を言おうかなと思っていたら、資料2と資料3が提示されてきた中で、やはり、10年、20年後を見据えて、小中一貫校に対応できるような場所、そういうのが必須だと一応今はそういう考えでいます。

委員 私も最初E地点という条件できているのだからと納得はしたのですが、あれっていう感じでこういう話になってきて、もう一度最初に返って考え直しました。それで、仮に南三原のC地点の方に、南三原小の方に造った場合、将来、再度どこかと合併しなければいけなくなったときに、まだ使えるけど使えない校舎ができてしまう。それで八方塞がりになっちゃうんじゃないかなと思います。ですから、嶺南中なりどこかの隣接地に建てればほかの地域の小学校と一緒にになれるかもしれないし、中学校と一緒にになれるかもしれないという可能性が残る。私たちがおばあちゃんになった時に少子高齢化ですごく子供たちに負担を強いることになる。更に、使えるけど使えないというようなものは造りたくないなと思っています。

委員長 そうすると、その、隣接地ということ。

委員 はい。

委員長 では、先ほどからいただいていますけどどうぞ。

委員 いずれにしても、私は言いたいことは言いました。それでE地点と最初いったんですけど、皆さんが駄目だと言うんで私はC地点と言いました。小学校でアンケートを出したら、E地点もいいけど、C地点の方がいいんじゃないかという意見が多かったので、私はC地点と言いました。高さがどうのこうのという話をしていましたけども、防災計画では14m、私が辞めてから15mになったんだと、私の記憶違いではなかったなと読み返したら分かりました。それでもっと高い所に逃げろと言うのであれば、5分もかからないで峰山へ逃げられます。私はそれで、あそこが一番高さ的にも大丈夫であるし、交通の便も丸山から来ても和田から来ても真ん中であるし、一番いいのかなと。それで海の状況もよく見えますし、地域が学校にかかわって長い年月を過ごしてきた地域でありますので、学校に対しても理解もありますし、皆さん、どこもそうでしょうけども、理解している地域なのかなと。合併の話の中で、南三原小学校区で検討してくださいという話で始まっていますので、それでお願いします。

委員 私は資料3の真ん中の①、②、③の「両者のバランスをとる」で考えたいと思います。そうすると、D地点というのが両者のバランスが一番とれるのかなと思います。

委員長 D地点ですか。

委員 小川です。地域の住民のことも考えられますので、この要は国道から離れているとかは全然論外だと思うんですよ。こういうことを考えないで、3つの中であれば、両者のバランスをとるのであればD地点。

委員長 ③を考えていきたいということですね。

委員 ①、②も一緒ですね、考えは。

委員長 内容的には重複しているでしょうけどね。主に③で考えたいと。

委員 和田の皆さんには大変申し訳ないんですが、学校を建てるとすれば嶺南中の場所がいいと思います。ただし、前回のメンバーの時に、何回目かは忘れましたが、発言

させてもらった時に、地区説明会が4回もありまして、その話を聞いたり、検討委員会の話も聞いていて、やっぱり和田町と丸山町にそれぞれあった方がいいなということで、割と早い段階で言ってしまって、建てるのであれば4校一緒にする規模の校舎を建てるよりも、和田だけ建てて、丸山は南小を使って、そうすれば学校の資金も少なくて済むし、いずれ両方が合併しなくてはいけなくなった時に、その時に初めて一緒になればいいんじゃないかという意見を言わせていただきました。その気持ちは今でもありますけど、ただやっぱり今、造るのであれば嶺南中のわきに接する所に造るのが一番ベストなんじゃないのかなと。

委員 私の個人的な意見としては、①も②も③も果たせる場所としては小川のカーネーション団地の辺りが一番いいんじゃないかという意見のままです。それであれば、南三原小学校区内であるし、子供も安全安心だし、ただ、「将来の学校を見据えたあり方」には引っかかってしまう気がしますが、子供がいて、楽しい学校になるようなロケーションではないかなと考えています。それで両方のバランスもとれているのはあこの場所であろうという思いです。それで、交通の関係上難しいというところは、運営している側の都合なので、子供のことを最優先に考えるのであれば、何とか解決できないのかなというところで思慮していただきたいという考えではあります。

委員 私は個人的な考えでいきますと、D地点を推したいんですが、この会議に昨年度から出させていただいていますが、皆さんが検討してきたことにつきまして考えてみますと、場所を一つに捉われずに子供たちの安全・安心、親から見ても絶対安全だという場所を、その辺を踏まえて考えさせていただくことが一番大事だと思っています。あと、ほとんど先ほど、委員がおっしゃったことがもっともだと思うんですけど、今回の会と並行して、市の方のビジョンを示していただければ一番理想だと思います。

委員 先ほど言いましたので、丸山中の隣で。

委員 すいません、この新聞持ってきました。平成25年10月27日に出ていた新聞です。この中で被災した宮城県の教授が来て授業をされて、中学生が活躍してくれたという内容が載っていて、皆さんも頑張ってくださいというメッセージですので、何か、津波が来た後の行動を考えたり、自然災害が起きた後となると、やっぱり親は当てにならないかなという感覚を持ちました。それで、やっぱり兄弟が近い方がいいのかなと思うと中学校の側に新しい校舎を建てて、将来、子供が減ることはあっても増えることはないかなと思いますので。私が一番最後にとりあげた子供たちが今、高校一年生になっているんですけども、病院に勤めている時には、一人目とか二人目を産みあげる年齢が旦那さんの経済的なことを考えると37歳だよと言っていた時代なんですけど、今はそれ以上に年齢が上がっているので言えなくなっています。更に7組に一人が不妊症の治療をしているというデータまで出てきています。それ位、子供の数は更に減るだろうと言われていています。

委員 私は最初から第一希望は小川です。ですが、第一希望は小川ですが、いろんなことを考えると、隣接の方がメリットは多いと思います。スクールバスの準備をしました。もう大変苦勞をしました。今でも、和田の親には納得していただけません。もし、隣

接して小学校のバスと両方使えるとしたら朝練の便も出たり、もっと使い勝手が良くなると絶対思います。そして、子供の数も37年でこれですから、47年になった時に大変また減ってしまうと思います。何しろ産業がありませんので、私の子供だって地元に残るとは思いません。ですので、出産できる人もぐっと減ると思います。そうなった時に、今、三芳では隣接してしまっていて大変便利です。教員の行き来もできずし、施設の共有もできます。私は小中一貫教育ではなく、隣接して別々のカリキュラムで、行き来ができる体制をお願いをしたいと思います。そうすることによって、可能性は大変広がると思います。そして、一番子供のためになると思います。私は北三原で学校をなくし大変寂しい思いをしましたが、子供たちは南三原小学校に行っても大変生き生きしています。私は合併にすごい反対しましたが、合併して良かったと思っています。ですので、子供のことを考えて、そのいろんな利便性を考えた時に南三原地区の方には大変申し訳ないですが、やっぱり隣接が可能性としては一番いいのかなと思います。ただ私の第一希望は小川地区です。よろしくお願いします。

委員 私もさっき言わせていただきましたけども、真ん中の①、②、③でいう「③の両方のバランスをとる」でいきたいと思います。その結果、E地点が最適じゃないかと自分は考えましたが、皆さん結構、反対意見が多いので。確かに、嶺南中の隣接地に建てる、言っていることは分かりますけども、やっぱり地域のバランスを考えると、私のエゴかもしれませんが、南三原小学校区でお願いできれば。今まで平成23年度、24年度で継続してまとめた意見でもありますので継続性を重視したいと思います。

委員 理想とすれば③のバランスだということだと思うんですけども、それを言っているとこれは決まらないんじゃないのかなという気持ちをすごく感じております。バランスということも大事なんですけど、どちらかに振った方が、私はどちらかという子供たちの安全・安心、将来を見据えた学校というところで、そこが学校の検討ですか、していかなければいけないところだと思います。やはり、希望としては和田町に学校は造ってほしいなあとは思いますが、会議がずっと進んでいく中で、4校の統合だということを経験した時に最初に何を思ったかと言いますと、「あっ、丸山中学校の隣に建つんだな」ということを私は思いました。そこが一番将来的には有効ですし、安全な地域ですのでそういう判断をしました。

委員 私は子供たちの安心、安全を第一に考えるべきだと思います。③番の両者のバランスを、そんなことはおかしいと思います。それは誰だってバランスを取ることを一番に考えます。それで自分は石巻に4度程行かせていただきましたが、大川小学校の所に行きました。それから大川小学校の関係者というか、大川地区の区長さんの代表の方々とお話をしました。報道されていることとはかなり違うことを目にしました。大川小学校も、先ほど子供たちだけと言いましたが、校舎も壊れています。子供の命を守るのが一番だと思います。それで、そのあと門脇小学校にも行きました。そこに住んでいる方からもお話を聞くことができましたけど、これも報道されていないお話を伺いました。小学校の子供たちは助かったんですけど、迎えに来ていた人達、母親は教室にいたんですけど、お年寄りや小さな子供たちは車の中で待っていた。そこを津

波が、それでただ津波で流されるならまだ良かったんだけど、そこは車のガソリンか何かでみんな黒こげになってしまったと、そういう話を聞きました。それで子供のいなくなった地域は、その地域がなくなってしまうということを聞きました。子供と命を守ることを最優先に考えないと駄目だと思います。

委員 皆同じことを言うと思うんですが、私も子供たちの安全、安心な場所と考えています。南三原小学校で避難訓練を2回以上やっておりますけど、やる度に峰金谷に逃げる途中に、子供は必至でいつも走って行っていますけど、やっぱり学校にいて安全がいいなといつも思っています。職員には3月中に机の上では防災の学習を次回やりましょうという話はしているんですけども、それもやはり安全ということを第1に考えています。和田小と南三原小に学校がなくなるのは寂しいという感情はあるんですけど、それは感情なので、一番は子供の安心と安全を守りたいなと思っています。

委員 やはり子供の安心、安全があつてこそその学校なんで、それが何よりも最優先だと思います。南小学校はいつも避難訓練の避難場所は丸山中学校です。幼稚園も含めてできるだけ早い時間でと言いますが、どうしても幼稚園の子は6年生が連れて行っても、防災頭巾を被っていたりすると、途中で限界があるんですね。そういう時に私としては何とか中学生の力を借りたいなというのがあります。全員じゃなくても途中まで迎えに来てもらえないだろうかっていう、幼稚園の年長は一緒に手を引いて行けるんですけど、年少になると2学期の末でも、その時はちょうど荷物を持っていたんですけど。やっぱり途中で、小学生になると10分で行けるんですけど、幼稚園になると結構厳しいものがあります。それで、体力差もあつたりするので、そういうことがあつた時に中学3年生が、全員来てくれというのは子供たちの安全もあるんだけど、10人でも、子供の数だけでも途中まで迎えに来てくれたら心強いなと2学期の避難訓練等で考えました。やっぱり職員だけではなくて、中学生が側にいるっていうことも安心なのかなと感じました。丸山地区なので丸山中と言うことに、はばかれるという委員さんもらっしやると思いますが、安全、安心を考えます。

委員 学校の再編会議なので、絶対的に子供の将来のことを考えるべきだと思います。会議の流れの中ではE地点かなと思いますが、実際問題、嶺南中となって、その子たちが後30年位たって、このような会議になった時は、もう和田も丸山もないんじゃないのかなと。嶺南中の卒業生として話をするんじゃないのかなと思います。なので、近い所がいいんじゃないのかなと今は思います。

委員 僕もE地点が候補地から外れる状況となった時は、中学校の側がいいんじゃないかと。何かにつけて、学校の近くなら便利だろうと、バスの運行もそうだし、先生の行き来もそうだし、例えばPTAの皆さんが何か学校行事で来たという時でも十分な駐車スペースがとれる、あるいは体育館も共有できる、あるいは教室なんかも共有できるということになれば、これは非常に便利なんじゃないのかなと私は思いました。非常にそうすると和田の人には申し訳ない気がするんですけども、こういうこと言っちゃ悪いんですが、和田の人たちはどうしても外れになっちゃうんですね。白浜もそうなんですけども、やっぱり外れになっちゃうとどうしても、さっき言われた疲弊し

ていってしまうことは当然あるわけで、そういう点で考えれば、さっき避難所をどっか造ればいいじゃないかという意見もあったりするんでね、それは議員さん辺りに力を出してもらってそういうことを和田の人たちと考えると、活発な方向性というものもできるんじゃないのかなと思うんですよ。それはそれとしても、今の中学校の側、隣というんですかね。いいんじゃないのかなと思います。またその次の、ひょっとすると何十年後かの次の合併ということも考えられるんじゃないかなと思いますしね。

委員 この児童数推移の減少を見ますと、4校の合併より学校ができた時点で数年でまたほかの地区との統合が考えられるんで、それを見据えた場所に建ててもらいたいです。

委員 E地点がいいと思ったんですが、環境的にどうしても駄目だと、中学の隣接地でもしょうがないかなと思っています。

委員 なかなか口が開けなかったということで、今日、地域を優先させる、気持ちを優先させる、そして子供たちの安全、安心、そしてその先にいかにしていい教育をとるか、そういう場を作っていきたい、そんな事は今までその話はずっとされてきたと思うんです。それで一番大切なのは、子供たちが力を付けていけるようになるのが私たちの狙いです。こういう状況になった時に、安全、安心とか何とか、この人たちにいい教育を是非、その環境を作ってあげたいなということに一番心を傾けました。そういう意味で一か所にまとめることによって、そういう場が作られるんじゃないかなと考えます。そういう人たちと一緒にやる場というのが、いかに自分の中に少し大人になれるなんてことを含めてですね、そういう意味でこの際、一体化するのがよろしいんじゃないのかなと思います。同じように三芳地区でも同じような状況になっている。そんなことも含めてですね。

委員 私は一言、②です。②の「子供たちの安全・安心や将来を見据えた学校のあり方などを考える」です。

委員 資料3をいただいた時に、平成26年って書いてあったんだけど、平成25年の誤りなんじゃないのかなと思います。まず、この叩き台が一番最初にあるべきではなかったのかなと思います。それで私は、嶺南中の近くが一番いいんじゃないかなと思います。

委員 私は安全な場所に建ててもらいたいというのが第一。現状の中で経済的な面だとか、教育効果を考えたら丸山中の隣が一番いいんじゃないかなと。本当言って、理想を言えば早くから両町の真ん中に小中一貫のすごい、夕日が輝いて海が見えるような所へ日本一の学校を建てられるのが良かったと思うんですが、現状の中ではそうですね。

委員 私は委員と違ましてね、町民にまだ決まらないのかと言われるんですよ。A、B、C、Dじゃなくて、Eでも駄目、Cでも駄目って言うのであれば、Cの山の裏に耕作放棄地、コスト的にも全然安い。それに、北三原、中三原も抜けられる。国道から来てもダンプも通る、大きい道のすぐだから、山の裏になるんですけどね。そういう所を検討したらどうかなと思うんですけどね。これはもう海拔15m以上あって全然問題ない、クリアできますから。それと、強いて言えば、徒歩通学してもC地区とそんなに距離は変わりません。環境が一番いいですね。とにかく、幼小は南三原でお願いします。それだけです。

委員　私も、子供たちの安心、安全が第一と考えています。しかし、今、嶺南中学校の隣接地の環境が分かりません。ですからちょっと判断ができないんですけれども、例えばE地点で地盤の問題ですとか、環境衛生の問題、農業振興の拠点になっているから難しい、そういう比較対象がないと、今の時点でどちらがいいかというのは判断できないです。ですから、そういう資料を出してもらった上で判断することはできると思いますけど、現時点では、当然、嶺南中学校の脇には川もあるでしょうし、崖はあるかは分かりませんが、そういったものが必ずしも嶺南中学校の所が安全なのかどうかというのが確認できませんので、私は基本的にはE地点でいいのではないかなど。要するにいろいろ問題はあったんだけど、こういうのを調べてあるわけですよ。完璧な所っていうのはないと思うんですよ。だから、一定の問題がクリアすれば、安心、安全が担保されればそれでいいと思います。

委員　私も、両方いいのはいいなと思って、初めは③で意見を持っていて、E地点でいいのかなと思っていたんですが、でもよく考えると両方いいというのはなかなかなくて、両方を駄目にする可能性もあるわけですので、やはり安全というものを採りたいなと思うんですね。暮れの議会だよりだったと思うんですが、和田の議員さんが市長に対して、候補地の見解を質問している場面があったんですね。その時に市長が、子供にとって最も良い教育環境をベースにして考えていきたいというのが載っていて、正にそれに大変賛成をして、教育環境というのはやはり安全、安心も入るわけですので、②を中心とした候補地を考えていければと思います。

委員　お子さんを預かる立場として少しお話をさせていただきたいと思います。やはり子供たちが安全、安心な場所が一番だと思います。4校の中で見れば、丸小学校が一番いいです。というのは標高43m、校舎も耐震が通っています。ただ、新しい校舎を建てるとなれば、今出てきた中では丸山中学校の脇が29mですか、校庭に出れば安全、逃げる必要もないのが一番です。あと、先ほど委員さんが言ったように、利便性は結構いいと思うんですね。スクールバスの話がありましたけども、中学校で1本だけです。幼小が付けば、小学校便が1、幼稚園便が1ということで、朝から3本ずつ動かせるような体制がとれると思います。それだけでも子供の生活がガラッと変わると思います。

委員　実は和田小学校は校舎自体の耐震が満たされていない状態でして、もし大きな津波が来るような地震があった場合には、津波よりも校舎が潰れてしまうという想定がないわけではありません。ですから、そういう状況も踏まえて、早く新しい学校を建ててもらって安全な所へという考えは持っています。私もこの再編会議2年目になりますが、和田小学校の校長としての立場ですと大変、発言がしづらいということがあります。再編委員になっていていいのかなという疑問を持ちつつ2年間過ぎているんですが、最近はやっぱり、いろんな面で意見を述べるべきだったのかなと思っているんですが、大変難しい立場で参加させていただいていました。私は館山市民なもので、地域、和田、南三原については、正直思い入れはないわけです。ですから、やはり皆さんの話から出ているように、やっぱり立場として子供の安全、安心は欠くことはで

きません。ただ、どこにということについては、和田小学校のPTAの皆さんとの話し合いや、意見交換がありました。その場でも私は、「私はここがいい、あそこがいい」とはなかなか思い切って言えない立場で過ぎていったのが現状です。今、ここで2年間の内、初めて意見を述べるわけですが、校長としての立場を外していただき、個人的には、第三者としてみれば、安心、安全、言っているのか分からないですけども新嶺南中の隣がベストだと、校長の立場を外しても個人的には思います。

委員 子供たちの安全、安心、そして子供たちの将来、これに尽きると思います。教育に携わる者として、論点が変わってしまうので、皆さんにお願いがあるんですけど、いずれどこかの建設地が決まります。それで新しい小学校が開設されます。子供たちを教育する者としては、子供たちが健全に育つ大事な要素として、「地域の皆さんとの連携、協力」、「保護者の皆さんとの連携、協力」これはなくてはならない。ですからこれまでの長い間、どこかに決めるために話し合いをしてきた。ここで溝ができたということも若干あるかもしれない。けれども、新しい学校ができたならば、嶺南中学校区の小学生、中学生を皆で育てていくんだというように心を一つにしていきたいというのが、学校からのお願いです。

委員 いろいろ話をした中では、嶺南中なんですけど、その近辺。なぜかという、先日、うちの職場の人間がアクアラインを使って出掛けた時に事故があって通行止めになって、アクアラインの中で通行止めにしたと。それでトンネルの中でかなり怖かったと。そうすると、ああいうところはかなり抜け道とかあると思うんですが、やはり国道とかそういう所で道が一本しかない所では皆迎えにも行けない。また、学校が二つに分かれていたら、両方に迎えに行かないといけないというデメリットが出てくるんじゃないのかなと。反対に一つの所にいけば、お兄ちゃんもいるから大丈夫だなと、そういうことを考えると、丸山として「じゃあ丸山にするのか」と言われるといけないので最近では黙っているんですけど、やっぱりお兄ちゃん、お姉ちゃんが近くにいるのが小さい幼稚園や小学校低学年の子たちには一番いいのかなと思います。

委員 子供たちの安全、安心を一番に考えて、今後の児童数とか通学のことを考えると、やはり嶺南中の隣接地に建つことが一番いいかなと考えます。4月から嶺南中がスタートして、そこで共に育っていくと、和田とか丸山とか、そういう地域の感情とかは大分なくなってくるのかなと思います。

委員 小学生の子供を持つ親としては、やはり安全な道を通って行ける学校が一番だと思うので、子供の減少からそういうことがなくなっていくのであれば、子供たちの学校生活の安心、安全が一番だと思います。災害のことはもちろんなんですけども、やはり安心、安全を考えると交通事故に遭う確率もなくなると思うんですね。それで、スクールバスを使うことで雨の中傘をさして、中学生ならまだ道で立ってバスを待って行くこともできると思うんですけども、小学生低学年になったら、やはり雨が降る中、バスを待つというのは結構辛いことだと思うので、もしこういういろんなことを考えると、中学校の隣接地でスクールバスの利便性が高い所がいいのかなと思います。和田小で子供たちが通うには、スクールバスの充実を図っていただける

中学校の近くがいいと思います。

委員 私も、一番最初から会議に出させていただいておりますが、最初は安全、安心を第一に考えて、新嶺南中の隣接地に小学校を建てるということで希望していました。丸と和田の話ということで、最初から丸を希望とそれをつき通すのではなくて、まず南三原小学校区内で検討した上で、その安全な場所があればそこに建てる、でもなければ、嶺南中の隣がいいという思いで、当初は南三原小学校区内で検討することに賛成しました。でも話し合いをしていく中で安全な場所がなかったわけですね。教育委員会の方は15m以上の所だったら安全だということでE地点を候補地として出してもらったので、私も土地に関しては危険かどうかというのが知識としてなかったのですが、教育委員会の方が安全と言うのであれば安全なんだということでE地点でもいいと思ったんですが、やっぱり地盤の問題だとか、新しく津波の想定が21mという話を新聞で読んで、やはり南三原小学校区内ではないという結論に至りました。なので、新嶺南中の隣に建てるのがいいと思います。

委員 私の意見としては、子供たちの安全、安心をまず第一に考えるべきなのかなと思っています。会議に参加させていただいた当初は、丸山の人間なんですけど、南三原小学校区内に建てるのが一番いいのかなと、どこからも中間なんで一番いいのかなと最初は考えていたんですけども、地区の説明会、あるいはここでの会議の話し合いの内容をいろいろ聞かせていただいて、段々どうなのかなと思いはじめているんですよ。やっぱりいろいろな利便性などを考えて、またこの会議というのは、学校の再編会議であって子供たちのことを一番に考えないといけない会議だと思いますので、まずは子供たちの安全ということをまず第一に考えなければいけないということで、今の意見としては中学の隣接地に建てるのが一番いいのかなと今の段階での意見としてはそういうところです。

委員 私も子供たちの安全、安心が私の中では絶対に一番です。でも場所は決め兼ねています。というのは、この資料を全部頭に入れておかないといけないという意見をいただきましたが、どうして盛土の意見が考え難いのかとか、あと衛生上の問題が引っかかっているとかいろいろありますけど、それがどういうふうの問題解決されてきたのかが私はさっぱり分からないんです。そういうのがあって、私はまだ決め兼ねています。嶺南中の隣接地は川の遡上が平気なのかとかも私たちは資料を調べる範囲が逸脱することがありますから、そういう説明を少しずついただきたいというのがあります。もう一つの意見としては、今日いただいた資料3の下の図の②なんですけど、例えば和田と丸山で統合して、しかるべき時が来たら、例えば児童数が少なくなってどうしようもなくなった時に、嶺南中もどんどん児童が減ってきますよね。その空いた教室とかで、小学校を同じ敷地の同じ校舎で、それは分からないですけど。もし定員が入るのであれば、そういうふうを考えるのもいいんじゃないかとは思っています。それが可能かどうかは教育委員会の方に教えていただければそういう考えも思っています。

委員 今日の資料の中で選ぶとすると、②は当たり前のことだと思うので、③を一番考えているんですけど。上の方に書いてある徒歩通学者が少なく、また国道から離れてい

るため、通園、通学などの利便性が低いことというのは、もう子供の数が少なくなっているから、徒歩通学者が少ないとかも関係なくなってきちゃうんじゃないのかなと思っていて、場所を決めようとするD地点の小川がいいんじゃないかなと思ってはいます。「1 現行のまま4校とする、2 旧町村別に統合し2校とする、3 嶺南中隣接地にする」というところで、いいなと思うのは今の時点では2校、和田は和田、丸山は丸山で統合して、それからでも遅くはないのかなと思っています。

委員 僕の考えは、以前も言いましたけど、基本的には南三原小学校区で検討するという
ことで、検討するということがほぼこの会議の中ではされていない状態だというふう
に思っております。E地点でという話で教育委員会の方から出していただいて、その
E地点についても話が一向に、何が駄目なのか、何がいいのかも検討されずにほかの
D地点とかC地点とか、ほかの地点をそういうふうに進めていくと話が進まないとい
うか、そういうかたちでずっと見ていました。結論からいうと、自分の意見は今の丸
山中の横に隣接するのが一番、いろんな意味でいいのかなと個人的な意見ではありま
す。検討するという議題であるならば、E地点をちゃんと検討して、次のステップに
進んでいくのが筋道ではないのかなと思います。この1, 2, 3の中で言えば、2の
子供の安全ということでお願いします。

委員長 皆さん、ありがとうございます。一応、本日出席の委員の方からのお声を一言ず
ついただきまして、私も胸にじんときるものがたくさんありました。今、たくさんの
御意見、貴重なお言葉をいただいたわけですが、皆さんお聞きのとおり、まだまだど
ういう視点で検討していくのかということにしても、まだばらつきが見えますね。そ
れから、そういうわけですから、当然、候補地はどこかということに関しても、皆さ
ん方の思いとか願いとかっていうものは、ずれが当然見られたわけでございます。で
も、前議長が、このようなことが検討していく上で必要だろうとことで、そういう御
判断の基に御指示をいただきました。委員もまた、推進役としてありがとうございます。
これだけの皆様方の思いがそれぞれお互いに受け止め合ったわけですが、実は
時間が今日は9時45分を過ぎたところでございます。協議することもあります、
でも今日は皆様方のお声を伺って確かにいろんな今までの人生経験とかそういったも
のに基づいたり、あるいは、平素から願いごとを願っていることなどがとてもよく伝
わったのではないかと思います。それにしましてもこの後、どうしようかなというこ
とでございますが、やはり候補地を決めていくということに本当に努力していかなけ
ればいけないわけでございますが、もう少しです、皆さん方のお声を基にしまして、
今日ここで決めることはとてもじゃないですが。

委員 あのですね、今、この話を伺った中で多数決ではありません。ただ皆さんの意見、
ある一定の方向は多分出たと思います。数だけで言えば。私はもっとその先に進んで、
3月いっぱい、このメンバーである方向性を決めないと、4月になったらまた委員が
皆変わります。本当に堂々巡りです。これだけは本当にお願ひします。皆さん、責任
を持って、地区の代表、学識経験者の方、PTA代表として出てきているわけですよ。
この3月で決めていただかないと困ると思います。

委員長　　今、大変貴重な御意見をいただきました。その方向で皆様方、ただ今日はもうちょっと、私の方の進め方も努力が足りませんが、今の段階では決定することはできないかなというふうに思いますので、もう少し慎重にしていくべきだと思いますが。

委員　　委員長の言われたこと、その通りなんですけども、ちょっと感じたことというか、確認というか、ちょっと申し上げたいと思うんですけど、この会議が丸山地区と和田地区と別々に開かれている段階で、丸山地区では、今度の嶺南中の隣接、その付近でいいんじゃないかという方向だったと思うんですよ。和田地区の皆さんに配慮すると、やはり和田地区に1個あった方がいいんじゃないかということで、その配慮して同意したと思うんですよ。それで、この合同会議になったと思うんですよ。つまり、地域性を優先して、そういう適切な場所がないかということで検討してきたわけですよ。地区説明会もそれでやりました。本当に具体的な候補地が挙がってきた時点で皆さん、いろいろな御意見があった、なかなかそこで皆、一致すれば良かったんですけど。ところが、それに対していろいろな意見が出て、なかなか同意が得られない状況がずっと続いてきたわけですよ。ということは、今日もその会議をやられていろいろな御意見がありました。結局ね、地域性やそういうものを優先するというには無理があるのかなと、つまりそういう適切な場所、皆が同意する場所がなかなか出てこないということは、いろいろ検討したけれども適切な場所がないからもう一度考えてみようということじゃないのかなと思うんですね。そういう意味で、例えば、今日、委員会から出された資料3が一つの検討材料になると思います。つまり、今までの地域性を優先して進んできたことに、捉われずにね、もっとそれぞれのいろんな良さ、ここにはないんですけどね、教育効果とか、どんな場合がいいだろうとか、それも含めればね、いろいろまた考えができてくると思うんですね。そういう意味で、今日は結論を出すわけにはいかないわけですね。

委員　　ちょっと待って、今、悪いけどさ、さっき委員が言ったように一応の方向性が出て、大体流れが見えてきたのにまた戻るの。戻すの。

委員長　　いや、そうじゃないですよ。

委員　　もう一回考えないといけないなんて。方向性が決まってきたの。それを基にして次回の会議をやらないとさっき言ったようにまた、元に戻っちゃうよ。

委員　　皆、一致しているわけじゃないんですよ。

委員　　当たり前ですよ。皆が皆一致するなんてあり得ないんですよ。

委員　　それを最終的にまた確認することになると思いますからね。

委員　　また元に戻っちゃうよ。

委員　　結局、そういうことになっちゃうかもしれないですよ。

委員　　今日、方向性を決めて、次回どうするかを話し合わないよ。

委員　　そういうことを私も申し上げているんですけどね。ですから、次回はずね、この委員会から出された資料を基にしてある程度の方向性を出しましょうという流れになるんじゃないかと、そこのところを確認したかったんですね。

委員長　　今、委員のお話で、こういう方向で話し合いを続けようとしても限界があるんじゃない

ないかということで、つまり、地域性の事を加味してこのことを考えていくということからある程度離れないと、候補地を決定し難いんじゃないかというお話だと思います。私もそのような気を少し持ち始めているところでございます。そういったことを今日の資料2、資料3あたりである程度の具体的な予想される数字を提供されて、皆様方の声を伺ったのですが、どなたかがおっしゃったんですが、皆が考えてここがいいよという候補地はなかなかないもんだよと御言葉の中にあっただかと思えます。本当にそういう気持ちはどなたもお持ちではなかったかなと思えます。そういう点で皆さん方のいろんなお声を一人ずつ伺ったわけですから、それらを今日、次の会までお忘れなくいろいろ思い出すなりして、次回でこの問題を更に深く、継続して検討していただいて、できるだけ、先ほど委員がおっしゃったように、年度内のところで、一応、検討の結論というんですかね、そういったものを得るようにまた皆さま方からいろんな御協力、中には先ほどのお話にもありましたね。こういう考えでいたけども、いろいろ皆さんの意見を聞いたら、私はこう変わってきたんだというお話もありました。そういった気持を持たれた方、たくさんいらっしゃると思います。そういったことで、今日の貴重な皆様方の声が次の会議に生かされて、何とかこの検討委員会の結論に到達できればいいなと願っておりますので。

教育長

今、委員長から今日の会議の意見を生かしてということですので、私の方から2点、会議を設定しますが、できれば2月の内に行いたいと思います。その際にはですね、今日非常に長くなっていますので、会議録を起こすのが大変なんですけども、必至になってやりまして、皆さんの今日の意見を生かすということは、今日の会議録を多少、違いが出てくる、本位ではないということも出てくるかも分かりませんが、急いで起こして、その会議録を皆さま方にお送りして、それを踏まえて次回は協議をしていただきたい。私の受けた印象では、安全、安心をとということが一番多かったかと思えますけど、それは私の一方的な判断になってしまうといけませんので、その点から会議録を早く起こして皆さん方にお届けして、それを踏まえて会議を進めていくことが一点。それと、今、途中でも出ましたけど、教育委員会の方に確認してもらわなければいけないということがありましたら、今日でなくてもいいですから、後で電話でもかまいませんから、学校再編推進課の方にこの点のついてはどうなっているのかということがありましたら、その点についても寄せていただいて、それについて、私ども予め答えて、それで次回の会議というものを設けたらどうかなということをお願いしたいと思うんですけど。具体的に委員長が言いました議論を生かしてということになってきますと、私どもができるのはそういうことかなと思っておりますけど、御理解いただければそのようにしたいと思います。

委員長

先ほど申し上げたとおりでございますので、この第2号議案につきましては、今日は検討したけども結論には至らなかったということで、そのように収めたいと思います。次にまた、教育長の話のように、次回引き続き検討するというごお願いいたします。それでは第3号議案の方に移りますが、第3号議案は次回合同会議の日程についてを議題といたします。お願いいたします。

事務局 それでは、第3号「次回合同会議の日程について」でございます。事務局といたしましては、次回で中学校関係についての協議というものは最後にしていきたいと考えております。ただ、まだ校歌が実質的には完成しておりません。ですので、開催日程ですが、現時点でよろしければ、2月27日（木）午後7時からということで開催できればと思いますがいかがでしょうか。

委員長 ただ今、事務局の方から次回を2月27日（木）午後7時から、会場はこの丸山公民館ということで予定をさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
(異議等なし)

委員長 それでは、御都合もあるかとは思いますが、御協力をお願いいたします。それでは、今日の議事は以上で終了いたします。遅くまで御協力ありがとうございました。

事務局 そのほかについて、まず一点目でございますが、参考資料として配付しましたものにつき説明をさせていただきます。参考資料については、平成24年3月の富山地区の学校再編検討委員会で、岩井・平群幼小の再編についての報告ということで、住民に向けて報告、周知をした資料となります。丸山地区、和田地区につきましても、このような内容のものを作りまして全戸配布をしていきたいと考えております。これにつきましては、次回の検討委員会に提案を考えています。それから、二点目でございますが、閉校式の日程でございます。御承知だとは思いますが、和田中学校が平成26年3月16日、午前9時の式典開始となっております。同じく丸山中学校については、同日午前10時30分から式典開始となっております。検討委員の皆様には招待状が発送されますので、御参加いただければと思います。それから、三点目でございますが、嶺南中学校の校章デザインに選ばれた方々の表彰式を平成26年2月26日（水）、午後2時から丸山公民館にて開催いたします。千倉小学校につきましても、同日、丸山公民館にて開催予定です。当日は、検討委員会の委員長及び副委員長に同席をいただければと存じますのでよろしく申し上げます。報告については以上でございます。何か御質問がございますか。

(質疑等なし)

事務局 それでは検討委員会で様々な案件について協議検討をいただいておりますので、そのことにつきましては、各種団体等で報告していただければ幸いに存じます。

以上で第13回丸山地区及び和田地区学校再編検討委員会合同会議を閉会いたします。

(閉会)